

営業状況等統計調査

(令和3年度財務諸表等より)

— 令和4年度 —

<解 説 編>



一般社団法人 日本旅館協会

JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和4年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

会員数と回答旅館ホテルの内訳.....	2
はじめに.....	3
報告書の読み方.....	5
I. 基本調査.....	7
1. 回答旅館ホテルの規模.....	7
2. 貸借対照表.....	9
3. 資本効率・借入金償還年数.....	11
4. 売上構成比.....	13
5. 原価率.....	15
6. 経費率.....	17
7. 利益率.....	20
8. GOP率.....	22
9. 定員稼働率・客室稼働率.....	24
10. 宿泊客1人当り総売上高.....	26
11. 売上効率.....	29
12. 就業者・就業者効率.....	31
13. 延床面積効率.....	34
II. 全件調査.....	35
1. 集客方法.....	35
2. ホームページ.....	37
3. 外国人宿泊客.....	38
4. インターネット対応.....	39
5. クレジットカード&電子決済.....	41
むすび.....	42

会員数と回答旅館ホテルの内訳

会員数（令和4年8月31日現在）

地域（支部連合会）	会 員 数	区 分
北 海 道	172	北海道
東 北	241	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	383	茨城県、栃木県、群馬、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	267	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	401	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	318	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	137	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	119	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	216	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,254	



大規模・・・客室数100室以上
 中規模・・・客室数31室以上99室以下
 小規模・・・客室数30室以下

<回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数(棟)				黒字の施設数 (棟)	黒 字 比 率 (%)	総回答数 (棟)
		大規模	中規模	小規模			
全 体	179	29	76	74	77	43.0	206
大規模	29	29	—	—	8	27.6	36
中規模	76	—	76	—	31	40.8	89
小規模	74	—	—	74	38	51.4	81
北海道	24	13	5	6	7	29.2	28
東北	16	0	6	10	4	25.0	20
関東	23	5	9	9	10	43.5	27
北陸信越	24	2	15	7	14	58.3	26
中部	16	1	8	7	9	56.3	20
関西	33	2	11	20	14	42.4	36
中国	13	2	5	6	7	53.8	16
四国	17	2	9	6	8	47.1	19
九州	13	2	8	3	4	30.8	14
黒字	77	8	31	38	77	100.0	79
赤字	100	21	43	36	0	0.0	109

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全件調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

<はじめに>

この調査は全ての協会員に対し、メール(一部 FAX 等)で周知して実施しています。今回は 206 軒の会員旅館から回答が寄せられました。ご協力いただいた会員各位にはこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

長引くコロナ禍において、旅館ホテルの危機的状況は未だ続いています。この調査は令和 4 年 8 月に開始しており、概ね令和 4 年 7 月以前の決算書を基に作成されたものです。従いまして期首が令和 2 年 9 月～令和 3 年 8 月の決算が反映されています。そのため、令和 2 年秋の GOTO トラベルの好影響を受けた旅館ホテルの決算が一部で反映されています。

今回は 12 月中に調査結果を公表することができました。なお今回も集計と解説は事務局内で行っております。

(1)対象年度の振り返り

ア) 訪日外国人数：令和 3 年（2021 年）の訪日外国人数は 24 万人となりました。前年度の令和 2 年（2020 年・411 万人）比▲94%、コロナ前の令和元年度（2019 年・3188 万人）比▲99%となっています。

イ) 訪日外国人の国内旅行消費額：令和 3 年の訪日外国人の日本国内での旅行消費額は、285 億円となりました。前年度の令和 2 年（7,446 億円）比▲96%、コロナ前の令和元年度（4 兆 8,135 億円）比▲99%となっています。

ウ) 日本人の国内旅行消費額：令和 3 年の日本人の国内旅行消費額は、9 兆 1,215 億円でした。前年度の令和 2 年（9 兆 8,982 億円）比▲8%、コロナ前の令和元年度（21 兆 9,312 億円）比▲58%となっています。

(2)今年度調査の回答数、回答率<表 1>

今年度の調査票送信数は 2,134 軒、回答数は 206 軒でした。全体の有効回答数は 179 軒で、送信軒数に占める有効回答率は 8.4%でした。

規模別にみる有効回答数の前年度比・令和元年度比は以下の通りです。

- ・大規模 29 軒（前年度比 ▲3 軒 ▲9.4% / 令和元年度比 ▲10 軒 ▲25.6%）
- ・中規模 76 軒（前年度比 +6 軒 +8.6% / 令和元年度比 ▲21 軒 ▲21.6%）
- ・小規模 74 軒（前年度比 +23 軒 +45.1% / 令和元年度比 +16 軒 +27.6%）

表1 有効回答全体の推移 (単位:軒)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
28 年	254	45	116	93
29 年	198	41	97	60
30 年	162	36	76	50
令和 元年	194	39	97	58
2 年	153	32	70	51
3 年	179	29	76	

(3)黒字・赤字の割合 <図 1、表 2>

経常利益で黒字・赤字を区分しています。全体では 43.0%となり、前年度から 11.0 ポイント増加しました。令和元年度からは 8.5 ポイント減少しています。平成 28 年度と比べると 26.3 ポイント減少しています。

大規模旅館は前年度に比べ増加しましたが、コロナ禍以前と比べると約半分になっており落ち込みが激しくなっています。

- ・ 大規模 27.6% （前年度比 +15.1P / 令和元年度比 ▲26.2P）
- ・ 中規模 40.8% （前年度比 +15.1P / 令和元年度比 ▲10.7P）
- ・ 小規模 51.4% （前年度比 ▲1.5P / 令和元年度比 ▲1.4P）

図1 黒字の割合（単位：％）

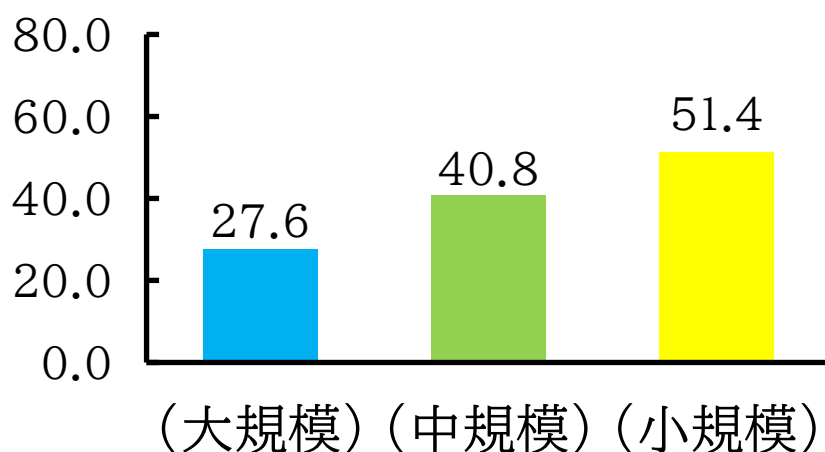


表2 黒字全体の推移（単位：％）

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
28 年	69.3	75.6	71.6	63.4
29 年	63.6	73.2	68.0	50.0
30 年	64.8	69.4	63.2	64.0
令和 元年	51.5	53.8	51.5	50.0
2 年	32.0	12.5	25.7	52.9
3 年	43.0	27.6	40.8	51.4

報告書の読み方

(1)調査の概要

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっています。基本調査は損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答（有効回答）に絞って集計しています。一方、全件調査はすべての回答を対象として集計しています。

また規模別集計は客室数を基準としています。

- ・大規模 : 100 室以上
- ・中規模 : 31 室以上 99 室以下
- ・小規模 : 30 室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字」「赤字」としています。

(2)今回の主な変更点

- ・解説編の一部の集計化結果において、コロナ前の数字との比較として、対令和元年度比の数値も記載しています。
- ・解説編の一部をカラー化しています。
- ・「電子決済の割合（クレジットカード含む）」という設問を削除し、「自社ホームページからの予約に占める事前決済の割合」という設問を追加しました。
- ・従業員の年齢に関する設問を削除しています。

(3)解説編の表記方法 <表3>

- ・この調査は調査開始時点での直近の決算書を対象に実施しています。各表の新年度は「令和3年」と表記しています。
- ・前年度との比較：例えば「大規模 20,000 円（▲500 円、▲2.4%）」と表記した場合、20,000 円は今年度の集計結果であり、（ ）内は前年度等との比較を示します。
- ・数値が前年度を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付します。
- ・%同士の引き算（例えば 14.4%－14.7%）の結果を%で表記すると 100 分率との混同がありますので、単位をポイントとし「P」と表記します。
- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記します。
- ・多くの決算書で「経費」や「販売管理費及び一般管理費」等と記される科目は表3の通り当協会の「統一会計基準」による区分としました。

(4)資料編について

資料編は集計結果のみを掲載しています。留意点は次のとおりです。

- ・調査は任意回答であるために一部に無回答があります。そこで項目ごとに集計対象を見直しています。
- ・全体平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計していますが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直しています。

原価率＝原価額÷売上額

黒字の原価率＝黒字施設全体の原価÷黒字施設全体の売上

赤字の原価率＝赤字施設全体の原価÷赤字施設全体の売上

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分しています。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過少の数値については、その項目を不明としています。
- ・また地域別・規模別において回答が1軒以下の場合は、算出された数値はblankとしています。従いまして東北、中部の大規模の地域別の回答は表示しません。なお、全体の大規模の平均には含まれます。

表3 経費区分

人 件 費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、 外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与
営 業 費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、 広告宣伝費、販売手数料
業 務 費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、 備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、 保守修繕費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管 理 費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、 保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減価償却費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I.基本調査

基本調査は全体の経営状況を分析します。

1.回答旅館ホテルの規模 <表 4、表 5>

(1)総客室数・収容定員

全体で1軒当り客室数は63室、収容定員240名となっています。規模別では、

・大規模	181 室	(前年度比	+20 室	+12.2%	/	令和元年度比	+8 室	+4.4%)
・中規模	58 室	(前年度比	+2 室	+4.4%	/	令和元年度比	▲3 室	▲4.2%)
・小規模	19 室	(前年度比	±0 室	▲0.3%	/	令和元年度比	+1 室	+5.2%)

収容定員は、

・大規模	659 人	(前年度比	+36 人	+5.7%	/	令和元年度比	±0 室	▲0.1%)
・中規模	239 人	(前年度比	+7 人	+3.1%	/	令和元年度比	▲18 室	▲6.9%)
・小規模	71 人	(前年度比	+3 人	+4.4%	/	令和元年度比	▲9 室	▲11.2%)

(2)1室当り収容定員

1室当り収容定員＝収容定員÷総客室数

全体で1室当り定員は3.8人と、前年度および令和元年度の4.0人から0.2人減少しています。

(3)総売上高

全体で1軒当りの総売上高は、377,669千円で前年度比15.2%減少、令和元年度比44.7%減少しました。

・大規模	880,242 千円	(前年度比	▲244,564 千円	▲21.7%	
		/	令和元年度比	▲826,228 千円	▲48.4%)
・中規模	418,838 千円	(前年度比	+56,797 千円	+15.7%	
		/	令和元年度比	▲184,232 千円	▲30.5%)
・小規模	138,434 千円	(前年度比	▲26,419 千円	▲16.0%	
		/	令和元年度比	▲43,886 千円	▲24.1%)

全ての規模において大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響と思われます。

・大規模	黒字：1,027,460 千円	赤字：824,159 千円
・中規模	黒字：548,090 千円	赤字：311,418 千円
・小規模	黒字：178,628 千円	赤字：96,007 千円

黒字・赤字別では、売上高に顕著な差があります。

(4)年間宿泊人員

1 軒あたり年間宿泊人員は全体で 18,915 人となり、前年度比 9.7%減少、令和元年度比 47.7%減少しました。

- ・大規模 50,806 人（前年度比 +2,528 人 +5.2% / 令和元年度比 ▲36,531 人 ▲41.8%）
- ・中規模 19,640 人（前年度比 +1,560 人 +8.6% / 令和元年度比 ▲13,042 人 ▲39.9%）
- ・小規模 5,761 人（前年度比 +119 人 +2.1% / 令和元年度比 ▲1,658 人 ▲22.3%）

表4 1棟あたりの総客室数・収容定員・1室当り定員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総客室数（室）	28 年	59	149	56	20
	29 年	67	166	56	19
	30 年	70	168	57	19
	令和 元 年	70	173	61	18
	2 年	65	161	56	19
	3 年	63	181	58	19
収容定員（人）	28 年	264	657	254	87
	29 年	298	716	255	81
	30 年	299	679	264	78
	令和 元 年	373	659	257	80
	2 年	261	623	232	68
	3 年	240	659	239	71
1 室当り定員（人）	28 年	4.5	4.4	4.5	4.4
	29 年	4.4	4.3	4.6	4.2
	30 年	4.3	4.0	4.7	4.1
	令和 元 年	4.0	3.8	4.3	4.4
	2 年	4.0	3.9	4.1	3.6
	3 年	3.8	3.6	4.1	3.7

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高（千円）	28 年	687,090	1,891,020	588,650	227,310
	29 年	832,180	2,253,030	627,890	191,540
	30 年	824,120	1,917,550	706,000	216,380
	令和 元 年	682,520	1,706,470	603,070	182,320
	2 年	445,128	1,124,806	362,041	164,853
	3 年	377,669	880,242	418,838	138,434
年間宿泊人員（人）	28 年	35,283	91,766	32,953	10,859
	29 年	42,483	111,841	33,646	9,375
	30 年	40,028	94,301	34,095	9,970
	令和 元 年	36,170	87,337	32,682	7,419
	2 年	20,958	48,278	18,080	5,642
	3 年	18,915	50,806	19,640	5,761

2.貸借対照表 <表 6、表 7、表 8、表 9>

(1)資産の状況

1 軒当りの総資産額は、全体で 1,100,433 千円となり、前年度から 20.7%減少、令和元年度から 12.8%減少しています。

- ・大規模 2,791,655 千円（前年度比 ▲1,084,830 千円 ▲28.0%
/ 令和元年度比 ▲541,885 千円 ▲16.3%）
- ・中規模 1,147,962 千円（前年度比 +55,071 千円 +5.0%
/ 令和元年度比 +141,242 千円 +14.0%）
- ・小規模 344,268 千円（前年度比 ▲28,387 千円 ▲7.6%
/ 令和元年度比 +43,578 千円 +14.5%）

表6 1軒当り資産

（単位：千円）

年度		全体	（大規模）	（中規模）	（小規模）
総 資 産 額	28 年	1,012,870	2,962,880	859,020	302,010
	29 年	1,412,100	4,193,530	861,470	271,870
	30 年	1,453,900	3,370,340	1,178,020	284,190
	令和 元 年	1,261,460	3,333,540	1,006,720	300,690
	2 年	1,388,164	3,876,485	1,092,891	372,655
	3 年	1,100,433	2,791,655	1,147,962	344,268
長 短 借 入 金 合 計	28 年	779,890	2,366,630	657,670	197,850
	29 年	921,200	2,644,380	617,730	158,300
	30 年	973,170	2,086,990	885,710	168,400
	令和 元 年	995,680	2,654,060	788,580	230,030
	2 年	976,754	2,582,449	837,919	255,274
	3 年	897,302	2,260,902	978,269	241,421

① 流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産です。総資産に占める割合は 23.1%と前年度と同じでした。令和元年度からは 2.8 ポイント増加しています。

② 固定資産

固定資産は総資産の 76.3%（前年度より－0.4 ポイント、令和元年度より－3.2 ポイント）を占め、前年度より減少しましたが依然として高水準です。宿泊産業が装置産業であるという実態を示しています。

(2) 負債・資本の状況

① 流動負債

流動負債は、1 年以内に返済や支払が予定される短期借入金や買掛金、未払金等です。今回の調査で総資本に占める割合は 14.6%（前年度より－0.2 ポイント、令和元年度より－2.1 ポイント）でした。規模別では、大規模が 14.6%、中規模が 14.9%、小規模が 13.6%でした。

資金繰り上、流動負債を流動資産が上回ることが健全です。

② 長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計が総資本に占める割合は 81.5%となり、前年度より 11.1 ポイント増加、令和元年度より 2.6 ポイント増加しました。コロナの影響で所謂ゼロゼロ融資によるものと思われます。

③ 自己資本（純資産）比率

企業の安全度・健全度を示す最も重要な指標です。基本的には過去の利益の積み重ねですので、金融機関が重視する指標です。マイナスは帳簿上債務超過を表します。

全体で 6.4%と、前年度より 7.0 ポイント減少、令和元年度より 11.2 ポイント減少しました。規模別では、大規模 10.8%、中規模 0.9%、小規模 11.5%でした。黒字全体が 17.9%、赤字全体は-0.2%でした。地域別で大きな違いがあります。

表7 貸借対照表

(単位: %)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	23.1	24.5	20.6	27.3
固定資産	76.3	75.1	78.8	71.4
繰延資産	1.4	0.3	2.4	1.3
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	14.6	14.6	14.9	13.6
(うち短期借入金)	7.2	8.5	6.2	6.0
固定負債	78.9	74.6	84.1	74.9
(うち長期借入金)	74.4	72.5	79.0	64.2
(長短借入金合計)	81.5	81.0	85.2	70.1
純資産	6.4	10.8	0.9	11.5
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位: %)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	28 年	18.0	18.7	16.2	21.0
	29 年	23.0	24.9	19.0	21.0
	30 年	19.3	19.2	19.0	23.2
	令和 元年	20.3	21.2	19.2	19.7
	2 年	23.1	22.0	23.8	26.8
	3 年	23.1	24.5	20.6	27.3
固定資産	28 年	81.9	81.2	83.7	78.6
	29 年	77.0	75.1	80.9	78.7
	30 年	80.5	80.8	80.7	76.6
	令和 元年	79.5	78.8	80.4	79.9
	2 年	76.7	78.0	75.7	72.6
	3 年	76.3	75.1	78.8	71.4
長短借入金合計	28 年	77.0	79.9	76.6	65.5
	29 年	65.2	63.1	71.7	58.2
	30 年	66.9	61.9	75.2	59.3
	令和 元年	78.9	79.6	78.3	76.5
	2 年	70.4	66.6	76.7	68.5
	3 年	81.5	81.0	85.2	70.1

表9 地域別自己資本比率 (単位: %)

	地域別 自己資本比率
全 体	6.4
大規模	10.8
中規模	0.9
小規模	11.5
北海道	17.4
東北	▲ 12.0
関東	9.8
北陸信越	1.9
中部	▲ 3.8
関西	11.4
中国	3.0
四国	▲ 1.0
九州	▲ 9.8
黒字	17.9
赤字	▲ 0.2

3.資本効率・借入金償還年数<表 10>

(1)総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示します。全体平均は－2.7%で前年度より 2.4 ポイント改善、令和元年度より 3.7 ポイント減少しました。経常利益がマイナスのため、マイナスとなります。

- ・大規模 ▲5.9%（前年度比 +0.3P / 令和元年度比 ▲6.1P）
- ・中規模 1.9%（前年度比 +6.3P / 令和元年度比 +0.7P）
- ・小規模 0.1%（前年度比 +1.5P / 令和元年度比 ▲5.2P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：2.59% 赤字：▲7.11%

(2)総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本回転率は総資本に対する売上高です。この数値が高いほど資本効率が良いと言えます。全体平均は 0.34 回転であり前年度から 0.02 回増加しましたが、依然低水準です。

- ・大規模 0.32 回（前年度比 +0.03 回 +8.7% / 令和元年度比 ▲0.23 回 ▲42.7%）
- ・中規模 0.36 回（前年度比 +0.01 回 +4.2% / 令和元年度比 ▲0.35 回 ▲48.6%）
- ・小規模 0.40 回（前年度比 ▲0.04 回 ▲8.6% / 令和元年度比 ▲0.24 回 ▲37.2%）

規模が大きくなるほど低くなっています。

黒字・赤字別では、

- ・黒字：0.44 回 赤字：0.28 回

(3)借入金償還年数

$$\text{借入金償還年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

借入金償還年数は借入金を理論上何年で償還出来るかを見る指標です。よって年数が少ないほど良くなります。本調査では便宜上、減価償却費と経常利益を借入金返済の原資と計算しました。

装置産業である宿泊業にとって借入金が多額になることはある意味やむを得ませんが、安定的な利益を確保し、10 年以内で償還出来るようにしたいものです。

全体平均は 109.2 年であり令和元年度から +90.1 年となりました。（前年度はマイナスであり償還できません）

- ・大規模 ▲32.4 年＝償還不能
- ・中規模 15.6 年（前年度比 +69.8 年 ▲128.8% / 令和元年度比 ▲2.48 年 ▲13.7%）
- ・小規模 18.3 年（前年度比 ▲13.9 年 ▲43.2% / 令和元年度比 +9.48 年 +107.7%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：11.0 年 赤字：▲24.9 年＝償還不能

コロナ禍で大規模の償却前経常利益が赤字になっていますので、当然この指標はマイナスになります。マイナスの年数は償還不能を表しナンセンスですが敢えて記しました。

表10 資本効率・資金回収年数

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総資本利益率（％）	28 年	2.1	2.3	1.6	2.6
	29 年	1.8	2.0	1.2	1.5
	30 年	1.3	1.3	1.2	2.5
	令和 元 年	1.0	0.2	1.2	5.3
	2 年	▲ 5.1	▲ 6.2	▲ 4.4	▲ 1.4
	3 年	▲ 2.7	▲ 5.9	1.9	0.1
総資本回転率（回）	28 年	0.64	0.59	0.68	0.73
	29 年	0.61	0.54	0.74	0.70
	30 年	0.60	0.57	0.60	0.80
	令和 元 年	0.62	0.55	0.71	0.64
	2 年	0.32	0.29	0.35	0.44
	3 年	0.34	0.32	0.36	0.40
借入金償還年数（年）	28 年	13.1	13.7	13.4	10.0
	29 年	12.3	11.9	13.8	10.6
	30 年	13.9	12.9	16.2	10.2
	令和 元 年	19.1	23.6	18.1	8.8
	2 年	▲ 39.8	▲ 25.3	▲ 54.2	32.2
	3 年	109.2	▲ 32.4	15.6	18.3

4.売上構成比 <図 2、表 11>

総売上の内訳は「宿泊料理売上」「飲物売上」「売店売上」「その他売上」としています。

飲物売上や売店売上は前年度比増加しましたが、コロナ前と比べれば減少しています。団体がほぼ消滅し、個人のお客様だけになったことによるものです。その他売上の割合が減少しましたが、各旅館ホテルにより計上する売上が大きく違いますので原因は不明です。

(1)宿泊料理売上

総売上高に占める宿泊料理売上の割合は全体平均で 85.6%となり前年度から 4.3 ポイント増加、令和元年度から 12.9 ポイント増加しました。

- ・大規模 86.0% (前年度比 +4.0P +4.9% / 令和元年度比 +11.7P +15.8%)
- ・中規模 86.9% (前年度比 +5.4P +6.6% / 令和元年度比 +17.2P +24.7%)
- ・小規模 80.4% (前年度比 +2.5P +3.2% / 令和元年度比 +0.8P +1.0%)

黒字・赤字別

- ・全体 黒字：86.5% 赤字：84.6%
- ・大規模 黒字：86.0% 赤字：86.1%
- ・中規模 黒字：89.1% 赤字：84.1%
- ・小規模 黒字：81.0% 赤字：79.1%

(2)飲物売上

飲物売上の構成比は、全体平均で 3.2%、前年度から 0.2 ポイント増加、令和元年度から 2.8 ポイント減少しました。

- ・大規模 2.8% (前年度比 ▲0.2P ▲8.1% / 令和元年度比 ▲1.6P ▲37.3%)
- ・中規模 3.3% (前年度比 +0.2P +7.9% / 令和元年度比 ▲4.4P ▲56.5%)
- ・小規模 3.8% (前年度比 +1.0P +35.7% / 令和元年度比 ▲2.5P ▲39.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：3.6% 赤字：2.8%
- ・大規模 黒字：3.3% 赤字：2.5%
- ・中規模 黒字：3.4% 赤字：3.2%
- ・小規模 黒字：4.4% 赤字：2.6%

(3)売店売上

全体平均で 3.3%、前年度比 0.1 ポイント増加、令和元年度比 1.4 ポイント減少しました。

- ・大規模 4.5% (前年度比 +0.9P +24.2% / 令和元年度比 ▲1.6P ▲26.7%)
- ・中規模 2.7% (前年度比 ▲0.4P ▲13.2% / 令和元年度比 ▲0.7P ▲20.9%)
- ・小規模 2.0% (前年度比 +0.1P +7.6% / 令和元年度比 ▲1.9P ▲47.6%)

黒字・赤字別では、

- ・ 全体 黒字：2.8% 赤字：3.6%
- ・ 大規模 黒字：3.7% 赤字：4.9%
- ・ 中規模 黒字：2.5% 赤字：2.8%
- ・ 小規模 黒字：2.6% 赤字：1.0%

(4)その他売上

その他売上の構成比は、全体平均で 8.0%、前年度比 4.5 ポイント減少、令和元年度比 8.6 ポイント減少しました。

- ・ 大規模 6.8% (前年度比 ▲4.6P ▲40.8% / 令和元年度比 ▲8.4P ▲55.6%)
- ・ 中規模 7.0% (前年度比 ▲5.3P ▲42.7% / 令和元年度比 ▲12.2P ▲63.3%)
- ・ 小規模 13.8% (前年度比 ▲3.6P ▲20.8% / 令和元年度比 +3.6P +35.2%)

黒字・赤字別では、

- ・ 全体 黒字：7.1% 赤字：8.9%
- ・ 大規模 黒字：7.2% 赤字：6.6%
- ・ 中規模 黒字：5.1% 赤字：9.9%
- ・ 小規模 黒字：12.1% 赤字：17.2%

図2 売上構成比 (単位：%)

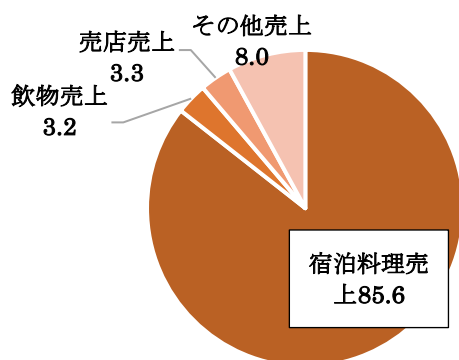


表11 売上構成比

(単位：%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料理売上	28 年	74.2	72.4	76.5	74.2
	29 年	74.5	72.6	76.3	80.2
	30 年	76.1	73.5	78.4	81.3
	令和 元 年	72.7	74.3	69.7	79.6
	2 年	81.3	82.0	81.5	77.9
	3 年	85.6	86.0	86.9	80.4
飲物売上	28 年	5.3	5.3	5.1	5.5
	29 年	5.4	4.8	6.1	5.3
	30 年	4.9	5.2	4.7	4.5
	令和 元 年	6.0	4.4	7.7	6.3
	2 年	3.0	3.0	3.1	2.8
	3 年	3.2	2.8	3.3	3.8
売店売上	28 年	5.2	6.3	4.4	3.6
	29 年	4.9	5.6	4.2	3.5
	30 年	5.0	6.2	3.6	3.7
	令和 元 年	4.7	6.1	3.4	3.9
	2 年	3.2	3.6	3.1	1.9
	3 年	3.3	4.5	2.7	2.0
その他売上	28 年	-	-	-	-
	29 年	15.2	16.9	13.3	11.0
	30 年	14.0	15.0	13.3	10.6
	令和 元 年	16.6	15.2	19.2	10.2
	2 年	12.5	11.4	12.3	17.4
	3 年	8.0	6.8	7.0	13.8

5.原価率 <図 3、表 12>

(1)売上総原価率

$$\text{売上総原価率} = \text{原価} \div \text{総売上} \times 100$$

総原価率は全体平均で 22.6%（前年度より +0.4 ポイント、令和元年度より -0.7 ポイント）となりました。

- ・大規模 30.4%（前年度比 +7.9P +35.2% / 令和元年度比 +7.0P +30.0%）
- ・中規模 20.8%（前年度比 ▲1.7P ▲7.6% / 令和元年度比 ▲2.8P ▲13.8%）
- ・小規模 20.4%（前年度比 +0.5P +2.4% / 令和元年度比 ▲1.2P ▲34.6%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：22.6% 赤字：23.5%
- ・大規模 黒字：28.8% 赤字：24.3%
- ・中規模 黒字：21.1% 赤字：22.7%
- ・小規模 黒字：19.2% 赤字：22.7%

(2)料理材料比率

$$\text{料理材料比率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

全体平均で 17.9%となり、前年度比 1.2 ポイント減少、令和元年度比 3.9 ポイント減少しました。

- ・大規模 17.9%（前年度比 ▲1.0P ▲5.2% / 令和元年度比 ▲2.1P ▲10.4%）
- ・中規模 18.1%（前年度比 ▲1.7P ▲8.4% / 令和元年度比 ▲6.0P ▲24.7%）
- ・小規模 16.8%（前年度比 ▲0.7P ▲4.2% / 令和元年度比 ▲4.5P ▲21.3%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：17.6% 赤字：18.9%
- ・大規模 黒字：15.2% 赤字：19.2%
- ・中規模 黒字：18.9% 赤字：19.1%
- ・小規模 黒字：16.9% 赤字：16.6%

(3)飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲物仕入} \div \text{飲物売上} \times 100$$

全体平均で 35.9%となり、前年度比 3.0 ポイント減少、令和元年度比 2.1 ポイント増加しました。

- ・大規模 41.5%（前年度比 +3.3P +8.6% / 令和元年度比 +9.6P +30.1%）
- ・中規模 32.5%（前年度比 ▲19.3P ▲37.3% / 令和元年度比 ▲3.0P ▲8.5%）
- ・小規模 34.8%（前年度比 ▲6.7P ▲16.0% / 令和元年度比 ▲0.1P ▲0.2%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：36.1% 赤字：37.7%
- ・大規模 黒字：45.0% 赤字：39.3%
- ・中規模 黒字：32.1% 赤字：37.3%
- ・小規模 黒字：35.7% 赤字：31.9%

(4)売店仕入率

売店仕入率=売店仕入÷売店売上×100

全体平均で 62.3%となり、前年度比 3.3 ポイント減少、令和元年度比 2.1 ポイント減少しました。

- ・大規模 62.3%（前年度比 ▲3.1P ▲4.7% / 令和元年度比 ▲1.0P ▲1.6%）
- ・中規模 65.5%（前年度比 ▲0.6P ▲0.8% / 令和元年度比 ▲1.1P ▲1.6%）
- ・小規模 48.7%（前年度比 ▲17.0P ▲25.8% / 令和元年度比 ▲19.8P ▲28.9%）

黒字・赤字別では、

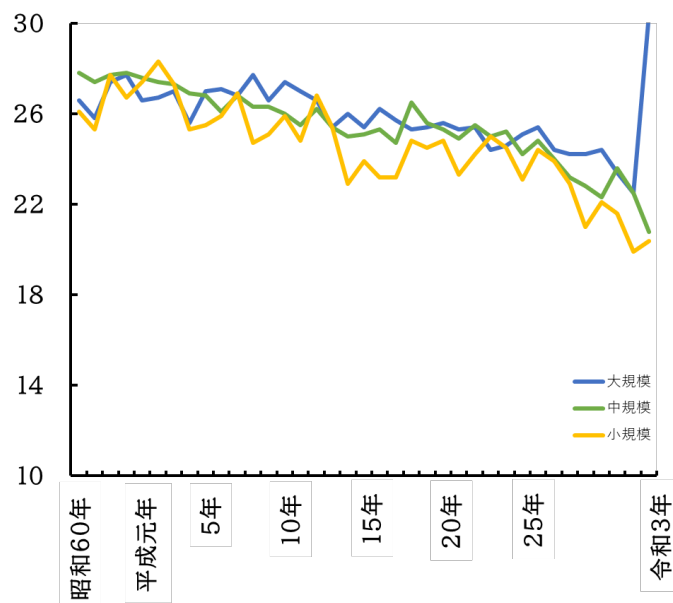
- ・全体 黒字：59.9% 赤字：67.5%
- ・大規模 黒字：57.4% 赤字：64.1%
- ・中規模 黒字：66.9% 赤字：76.4%
- ・小規模 黒字：47.2% 赤字：56.5%

表12 原価効率

(単位: %)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総原価率	28 年	23.7	24.2	23.2
	29 年	23.5	24.2	22.8
	30 年	23.3	24.4	22.3
	令和 元 年	23.3	23.4	23.6
	2 年	22.2	22.5	22.5
	3 年	22.6	30.4	20.8
料理材料比率	28 年	19.8	19.4	20.2
	29 年	19.9	19.9	20.3
	30 年	19.3	19.7	18.9
	令和 元 年	21.8	20.0	24.1
	2 年	19.1	18.9	19.8
	3 年	17.9	17.9	18.1
飲料仕入率	28 年	32.9	33.2	33.2
	29 年	33.3	34.5	31.7
	30 年	33.5	32.1	35.2
	令和 元 年	33.8	31.9	35.5
	2 年	38.9	38.2	51.8
	3 年	35.9	41.5	32.5
売店仕入率	28 年	65.1	64.0	66.4
	29 年	67.5	67.7	67.5
	30 年	65.5	64.5	67.0
	令和 元 年	64.4	63.3	66.6
	2 年	65.6	65.4	66.1
	3 年	62.3	62.3	65.5

図3 売上総原価率の推移(%)



6.経費率 <表 13>

当協会の統一会計基準のとおり、経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の 5 つに分類しています。

(1)人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上} \times 100$$

人件費は役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与の合計です。

人件費率は全体平均で 44.3% となり前年度より 3.9 ポイント減少、令和元年度より 9.0 ポイント増加しました。雇用調整助成金の活用により社員の雇用を守ってきましたが、コロナ禍が長引くことにより徐々に退職する社員が増えたことが原因と思われます。通常、人件費率が 40% を超えると経常利益は出にくいと言われています。

- ・大規模 44.3% (前年度比 ▲5.2P ▲10.6% / 令和元前年度比 +9.2P +26.1%)
- ・中規模 43.7% (前年度比 ▲4.5P ▲9.4% / 令和元年度比 +8.5P +24.1%)
- ・小規模 46.5% (前年度比 +3.1P +7.1% / 令和元年度比 +9.7P +26.4%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：37.1% 赤字：52.9%
- ・大規模 黒字：33.1% 赤字：49.5%
- ・中規模 黒字：38.7% 赤字：54.7%
- ・小規模 黒字：38.0% 赤字：63.2%

(2)営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上} \times 100$$

営業費は販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料の合計です。

営業費率は全体平均で 12.5% となり前年度より 1.3 ポイント減少、令和元年度より 0.9 ポイント増加しました。

前年度が大きく増加しましたので今回の調査では減少しましたが、コロナ禍以前と比べると増加しています。黒字旅館は自社 HP や直扱いのお客様が多いことが原因と思われます。

- ・大規模 13.2% (前年度比 ▲2.2P ▲14.3% / 令和元年度比 +0.2P +1.5%)
- ・中規模 12.4% (前年度比 ▲0.4P ▲3.2% / 令和元年度比 +2.0P +19.2%)
- ・小規模 11.2% (前年度比 +0.4P +4.0% / 令和元年度比 +1.3P +13.4%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：11.6% 赤字：13.9%
- ・大規模 黒字：12.4% 赤字：13.6%
- ・中規模 黒字：11.6% 赤字：14.7%
- ・小規模 黒字：10.8% 赤字：12.1%

(3)業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上} \times 100$$

業務費はサービス費、備品消耗品費、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費の合計です。

業務費率は全体平均で 19.9% となり前年度より 0.1 ポイント減少、令和元年度より 5.5 ポイント増加しました。

業務費は変動費の割合が多いと考えられますが、一部固定費もあり、コロナ禍と比べ大幅な売上減少により以前高い水準です。

- ・大規模 17.2% (前年度比 ▲2.1P ▲11.0% / 令和元年度比 +3.1P +21.8%)
- ・中規模 22.0% (前年度比 +0.2P +1.1% / 令和元年度比 +7.0P +47.0%)
- ・小規模 19.7% (前年度比 +2.2P +12.7% / 令和元年度比 +6.6P +50.5%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：17.8% 赤字：22.6%
- ・大規模 黒字：15.2% 赤字：18.1%
- ・中規模 黒字：19.1% 赤字：28.1%
- ・小規模 黒字：17.7% 赤字：23.7%

(4)管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上} \times 100$$

管理費はリース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務消耗品費、雑費の合計であり多くは固定費です。

管理費率は全体平均で 10.4% となり前年度より 1.0 ポイント減少、令和元年度より 2.0 ポイント増加しました。売上が減少しても抑えることが難しい経費です。黒字旅館と赤字旅館では売上額の違いもあり大きく違っています。

- ・大規模 13.0% (前年度比 +0.4P +3.3% / 令和元年度比 +5.2P +66.8%)
- ・中規模 8.6% (前年度比 ▲2.0P ▲19.2% / 令和元年度比 ▲0.6P ▲6.9%)
- ・小規模 9.5% (前年度比 +0.1P +0.6% / 令和元年度比 +1.8P +22.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：7.8% 赤字：13.3%
- ・大規模 黒字：7.6% 赤字：15.6%
- ・中規模 黒字：8.0% 赤字：10.1%
- ・小規模 黒字：7.2% 赤字：13.9%

(5)減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上} \times 100$$

建物や設備等の資産を毎年償却する額です。全体平均で 10.0% となり前年度より 0.8 ポイント減少しました。令和元年度より 4.3 ポイント増加しました。前年度比では減少しましたが、コロナ禍以前と比べると売上の減少により割合は増えています。

- ・大規模 10.7%（前年度比 ▲0.6P ▲5.5% / 令和元年度比 +4.5P +72.2%）
- ・中規模 9.8%（前年度比 ▲0.8P ▲7.6% / 令和元年度比 +4.5P +84.8%）
- ・小規模 9.2%（前年度比 ▲0.1P ▲1.2% / 令和元年度比 +3.6P +64.1%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：7.9% 赤字：12.4%
- ・大規模 黒字：8.9% 赤字：11.5%
- ・中規模 黒字：7.5% 赤字：13.8%
- ・小規模 黒字：7.9% 赤字：11.8%

(6)支払利息率

$$\text{支払利息率} = \text{支払利息} \div \text{総売上} \times 100$$

総売上に占める支払利息の割合です。全体平均で 3.4%となり前年度より 0.5 ポイント減少、令和元年度より 1.4 ポイント増加しました。

いわゆるゼロゼロ融資により支払利息額は自体はあまり増加していないと思われますが、売上減少による既存の支払利息の割合が依然として多く問題です。

- ・大規模 3.8%（前年度比 ▲0.2P ▲5.0%
/ 令和元年度比 +1.5P +65.3%）
- ・中規模 3.6%（前年度比 +0.8P +27.9%
/ 令和元年度比 +1.7P +88.5%）
- ・小規模 2.0%（前年度比 ▲4.8P ▲69.9%
/ 令和元年度比 +0.9P +86.2%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：2.0% 赤字：4.9%
- ・大規模 黒字：2.1% 赤字：4.6%
- ・中規模 黒字：2.2% 赤字：5.7%
- ・小規模 黒字：1.5% 赤字：3.2%

表13 経費率 (単位:%)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
人件費率	28 年	32.5	31.4	33.2	35.3
	29 年	32.8	31.6	34.0	35.8
	30 年	34.0	32.9	34.6	37.4
	令和 元年	35.3	35.1	35.2	36.8
	2 年	48.2	49.5	48.2	43.4
	3 年	44.3	44.3	43.7	46.5
営業費率	28 年	14.3	13.8	14.8	14.1
	29 年	11.0	11.0	10.8	11.4
	30 年	10.8	11.4	10.2	10.1
	令和 元年	11.6	13.0	10.4	9.9
	2 年	13.8	15.4	12.8	10.8
	3 年	12.5	13.2	12.4	11.2
業務費率	28 年	-	-	-	-
	29 年	15.0	14.6	15.7	14.3
	30 年	16.2	16.7	15.8	14.9
	令和 元年	14.4	14.1	15.0	13.1
	2 年	20.0	19.3	21.8	17.5
	3 年	19.9	17.2	22.0	19.7
管理費率	28 年	19.6	19.5	20.1	18.9
	29 年	9.3	8.7	10.0	10.3
	30 年	7.9	6.4	9.4	10.1
	令和 元年	8.4	7.8	9.2	7.7
	2 年	11.4	12.6	10.6	9.4
	3 年	10.4	13.0	8.6	9.5
減価償却費率	28 年	5.9	5.8	6.2	5.5
	29 年	5.8	6.1	5.4	5.8
	30 年	5.8	6.2	5.6	4.5
	令和 元年	5.7	6.2	5.3	5.6
	2 年	10.8	11.3	10.6	9.3
	3 年	10.0	10.7	9.8	9.2
支払利息率	28 年	2.1	2.2	2.2	1.5
	29 年	2.0	2.3	1.7	1.3
	30 年	1.9	1.9	2.0	1.2
	令和 元年	2.0	2.3	1.9	1.1
	2 年	3.9	4.0	2.8	6.8
	3 年	3.4	3.8	3.6	2.0

7.利益率 <図 4、表 14、表 15、表 16>

総売上から原価を引いた売上総利益（粗利益）、そこから経費を引いた営業利益、さらに営業外損益を増減した後の経常利益等を集計しました。

(1)売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で 77.4% となり、前年度より 0.4 ポイント減少、令和元年度より 0.7 ポイント増加しました。

- ・大規模 69.6%（前年度比 ▲7.9P ▲10.2% / 令和元年度比 ▲7.0P ▲9.2%）
- ・中規模 79.2%（前年度比 +1.7P +2.2% / 令和元年度比 +2.8P +3.7%）
- ・小規模 79.6%（前年度比 ▲0.5P ▲0.6% / 令和元年度比 +1.2P +1.6%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：77.4% 赤字：76.5%
- ・大規模 黒字：71.2% 赤字：75.7%
- ・中規模 黒字：78.9% 赤字：77.3%
- ・小規模 黒字：80.8% 赤字：77.3%

(2)営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均でマイナス 19.7% となり、前年度より 6.8 ポイント増加、令和元年度より 21.0 ポイント減少しました。

すべての規模において 2 年連続赤字となりました。旅館ホテル業界の苦境を物語っています。

- ・大規模 ▲28.7%（前年度比 +1.8P / 令和元年度比 ▲29.2P）
- ・中規模 ▲17.2%（前年度比 +9.3P / 令和元年度比 ▲18.6P）
- ・小規模 ▲16.5%（前年度比 ▲6.2P / 令和元年度比 ▲21.7P）

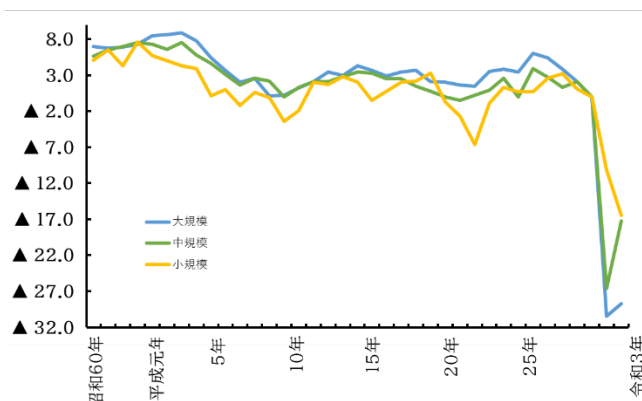
黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：▲4.9% 赤字：▲38.6%
- ・大規模 黒字：▲6.0% 赤字：▲32.6%
- ・中規模 黒字：▲6.1% 赤字：▲44.1%
- ・小規模 黒字：▲6.7% 赤字：▲47.5%

表14 利益率 (単位: %)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総利益率				
28 年	76.4	75.8	76.9	77.1
29 年	76.5	75.8	77.2	79.0
30 年	76.7	75.6	77.7	77.9
令和 元 年	76.7	76.6	76.4	78.4
2 年	77.8	77.5	77.5	80.1
3 年	77.4	69.6	79.2	79.6
営業利益率				
28 年	4.1	5.4	2.7	3.2
29 年	2.7	3.8	1.3	1.5
30 年	2.0	2.1	2.1	1.1
令和 元 年	1.3	0.5	1.4	5.2
2 年	▲26.5	▲30.5	▲26.6	▲10.2
3 年	▲19.7	▲28.7	▲17.2	▲16.5

図4 営業利益率の推移(%)



(3) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体全体の平均はマイナス 7.9%で、前年度から 8.4 ポイント改善、令和元年度から 9.8 ポイント減少しました。

雇用調整助成金や各種コロナ対策補助金等の営業外収入が増加したことで、営業利益より改善しています。また規模や地域により大きく違ってきます。

- ・大規模 ▲18.6% (前年度比 +1.7P / 令和元年度比 ▲19.0P)
- ・中規模 5.2% (前年度比 +20.1P / 令和元年度比 +3.3P)
- ・小規模 0.3% (前年度比 +4.8P / 令和元年度比 ▲8.4P')

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：5.9% 赤字：▲25.3%
- ・大規模 黒字：3.6% 赤字：▲22.2%
- ・中規模 黒字：4.2% 赤字：▲29.6%
- ・小規模 黒字：12.8% 赤字：▲24.1%

一般社団法人日本旅館協会「令和4年度 営業状況等統計調査」

(5) 償却前経常利益率

$$\text{償却前経常利益率} = (\text{経常利益} + \text{減価償却額}) \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均は 2.2%で、前年度から 7.7 ポイント増加、令和元年度から 5.4 ポイント減少しました。

- ・大規模 ▲7.9% (前年度比 +1.2P / 令和元年度比 ▲14.5P)
- ・中規模 15.0% (前年度比 +19.2P / 令和元年度比 +7.8P)
- ・小規模 9.5% (前年度比 +4.7P / 令和元年度比 ▲4.8P)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：13.8% 赤字：▲12.9%
- ・大規模 黒字：12.5% 赤字：▲10.7%
- ・中規模 黒字：11.7% 赤字：▲15.9%
- ・小規模 黒字：20.7% 赤字：▲12.3%

表15 利益率 (単位: %)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
経常利益率	28 年	3.6	4.7	2.2	3.5
	29 年	2.9	3.8	1.8	1.8
	30 年	2.3	2.3	2.1	2.8
	令和 元年	1.9	0.4	1.9	8.7
	2 年	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 14.9	▲ 4.5
	3 年	▲ 7.9	▲ 18.6	5.2	0.3
償却前利益率	28 年	9.5	10.5	8.3	9.0
	29 年	8.3	9.9	7.2	7.6
	30 年	8.1	8.5	7.8	7.3
	令和 元年	7.6	6.6	7.2	14.3
	2 年	▲ 5.5	▲ 9.1	▲ 4.3	4.8
	3 年	2.2	▲ 7.9	15.0	9.5

表1 地域別経常利益率 (単位: %)

	地域別 経常利益率
全 体	▲ 7.9
大規模	▲ 18.6
中規模	5.2
小規模	0.3
北海道	▲ 5.6
東北	▲ 7.4
関東	▲ 3.3
北陸信越	▲ 1.5
中部	▲ 5.7
関西	▲ 2.0
中国	1.4
四国	▲ 12.3
九州	▲ 50.3
黒字	5.9
赤字	▲ 25.3

8.GOP 率 <表 17>

宿泊業の指標として重要視されている GOP（償却前営業利益）も集計しました。

(1)総売上対GOP

$$\text{総売上対GOP} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{総売上} \times 100$$

GOP は Gross Operating Profit の略で、運営総利益を表します。全体平均でマイナス 9.7%となり、前年度より 6.0 ポイント減少、令和元年度より 16.7 ポイント減少しました。

- ・大規模 ▲18.0%（前年度比 +1.2P / 令和元年度比 ▲24.7P）
- ・中規模 ▲7.5%（前年度比 +8.5P / 令和元年度比 ▲14.1P）
- ・小規模 ▲7.3%（前年度比 ▲6.3P / 令和元年度比 ▲18.1P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：3.0% 赤字：▲26.2%

(2)借入金対 GOP

$$\text{借入金対 GOP} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{長短借入金} \times 100$$

全体平均でマイナス 4.1%となり、前年度より 3.1 ポイント改善、令和元年度より 8.9 ポイント減少しました。

- ・大規模 ▲7.0%（前年度比 +1.4P / 令和元年度比 ▲11.3P）
- ・中規模 ▲3.2%（前年度比 +3.7P / 令和元年度比 ▲8.3P）
- ・小規模 ▲4.2%（前年度比 ▲3.5P / 令和元年度比 ▲12.8P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：2.0% 赤字：▲8.2%

(3)1 室当り GOP

$$\text{1 室当り GOP} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{客室数}$$

全体平均でマイナス 582 千円となり、前年度より 493.3 ポイント改善、令和元年度より 1266.9 ポイント減少しました。

- ・大規模 ▲879.1 千円（前年度比 +467.3P / 令和元年度比 ▲1540.6P）
- ・中規模 ▲533.9 千円（前年度比 +469.0P / 令和元年度比 ▲1193.3P）
- ・小規模 ▲531.5 千円（前年度比 ▲447.8P / 令和元年度比 ▲1631.5P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：259.5 千円 赤字：▲1206.7 千円

(4)1 m²当り GOP

$$\text{1 m}^2\text{当り GOP} = \text{GOP(営業利益+減価償却費)} \div \text{延床面積}$$

全体平均でマイナス 4.6%となり、前年度より 2.4 ポイント改善、令和元年度より 10.2 ポイント減少しました。

- ・大規模 ▲7.1%（前年度比 +1.1P / 令和元年度比 ▲12.4P）
- ・中規模 ▲3.9%（前年度比 +3.4P / 令和元年度比 ▲9.4P）
- ・小規模 ▲4.7%（前年度比 ▲4.1P / 令和元年度比 ▲13.7P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：+1.7% 赤字：▲10.7%

表17 売上構成比

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高対 G O P (%)	28 年	10.0	11.1	8.8	8.7
	29 年	8.5	9.9	6.7	7.2
	30 年	7.8	8.3	7.7	5.5
	令和 元 年	7.0	6.7	6.7	10.9
	2 年	▲ 15.7	▲ 19.3	▲ 15.9	▲ 1.0
	3 年	▲ 9.7	▲ 18.0	▲ 7.5	▲ 7.3
借入金対 G O P (%)	28 年	8.9	8.9	7.9	10.1
	29 年	7.7	8.4	6.9	8.7
	30 年	7.7	7.6	6.1	7.1
	令和 元 年	4.8	4.3	5.1	8.6
	2 年	▲ 7.2	▲ 8.4	▲ 6.9	▲ 0.6
	3 年	▲ 4.1	▲ 7.0	▲ 3.2	▲ 4.2
1 室あたり G O P (千円)	28 年	1,177.1	1,414.7	924.6	1,001.0
	29 年	1,060.3	1,340.6	756.8	727.9
	30 年	921.7	954.1	950.5	629.5
	令和 元 年	685.0	661.4	659.3	1,100.0
	2 年	▲ 1,075.2	▲ 1,346.4	▲ 1,030.0	▲ 83.6
	3 年	▲ 581.9	▲ 879.1	▲ 533.9	▲ 531.5
1 m ² あたり G O P (%)	28 年	7.5	8.7	6.3	8.1
	29 年	7.1	8.8	5.2	6.0
	30 年	7.0	8.4	5.8	4.9
	令和 元 年	5.6	5.3	5.5	9.0
	2 年	▲ 7.0	▲ 8.2	▲ 7.3	▲ 0.6
	3 年	▲ 4.6	▲ 7.1	▲ 3.9	▲ 4.7

9.定員稼働率・客室稼働率 <図 5、表 18、表 19>

全体の稼働率は定員を基準とする「定員稼働率」と客室を基準とする「客室稼働率」があります。団体旅行の多い時代には定員稼働率が重視されましたが、個人化が進んだ現在は客室稼働率の方が重要です。

(1)定員稼働率

定員稼働率=宿泊人員÷(収容定員×営業日数)×100

全体全体では 21.3%で、前年度から 3.8 ポイント減少、令和元年度から 15.1 ポイント減少しました。全ての規模において前年度比減少し、コロナ禍前からは大幅に減少しています。客室稼働率の減少と団体客の消滅による 1 室あたりの人員の減少が原因です。

- ・大規模 21.4% (前年度比 ▲3.6P ▲14.3% / 令和元年度比 ▲16.0P ▲42.7%)
- ・中規模 13.8% (前年度比 ▲10.6P ▲43.6% / 令和元年度比 ▲21.9P ▲61.5%)
- ・小規模 23.2% (前年度比 ▲7.2P ▲23.7% / 令和元年度比 ▲5.3P ▲18.6%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 30.4% ・赤字 16.9%

(2)客室稼働率

客室稼働率=利用客室数÷(客室数×営業日数)×100

全体平均は 36.3%で前年度から 9.2 ポイント減少、令和元年度から 25.5 ポイント減少しました。

全ての規模において減少しました。黒字旅館と赤字旅館に著しい差があります。

- ・大規模 35.0% (前年度比 ▲9.6P ▲21.4% / 令和元年度比 ▲29.2P ▲45.4%)
- ・中規模 40.2% (前年度比 ▲6.6P ▲14.2% / 令和元年度比 ▲21.0P ▲34.4%)
- ・小規模 38.6% (前年度比 ▲10.9P ▲22.0% / 令和元年度比 ▲11.7P ▲23.3%)

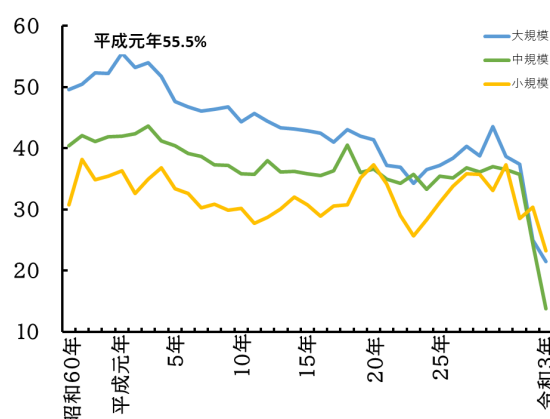
黒字・赤字別では、

- ・黒字 48.8% ・赤字 29.2%

表18 稼働率・1室当り宿泊利用人員

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率(%)	28 年	37.3	38.8	36.1	35.7
	29 年	40.2	43.5	37.0	33.1
	30 年	38.1	38.7	36.5	37.3
	令和 元年	36.4	37.4	35.7	28.5
	2 年	25.1	25.0	24.4	30.4
	3 年	21.3	21.4	13.8	23.2
客室稼働率(%)	28 年	62.4	65.3	61.1	54.2
	29 年	68.0	73.8	63.0	55.0
	30 年	64.0	64.5	64.6	57.4
	令和 元年	61.8	64.2	61.2	50.3
	2 年	45.5	44.6	46.8	49.5
	3 年	36.3	35.0	40.2	38.6
1室当り宿泊利用人員(人)	28 年	2.66	2.60	2.71	2.86
	29 年	2.65	2.58	2.74	2.64
	30 年	2.58	2.47	2.73	2.60
	令和 元年	2.49	2.71	2.50	2.27
	2 年	2.40	2.26	2.40	3.74
	3 年	2.25	2.22	1.40	2.20

図5 定員稼働率の推移(%)



(3)地域別稼働率

どの地域も低稼働です。特に九州の小規模旅館の落ち込みが激しいです。

表19 地域別稼働率 (単位: %)

地域		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率	北海道	31.6	20.2	15.3	28.5
	東北	17.8	—	21.6	11.7
	関東	22.3	21.4	23.9	28.0
	北陸信越	23.2	47.7	20.7	20.0
	中部	26.5	—	28.3	28.8
	関西	22.3	24.2	24.2	24.1
	中国	23.1	23.5	22.1	24.4
	四国	20.7	16.2	21.1	31.6
	九州	20.0	19.0	24.9	9.3
客室稼働率	北海道	31.4	31.3	28.7	52.9
	東北	37.7	—	42.8	31.5
	関東	39.0	41.0	38.7	44.3
	北陸信越	40.2	53.6	37.2	38.8
	中部	38.3	—	35.5	45.2
	関西	40.6	46.4	47.7	35.7
	中国	40.0	46.5	38.4	30.0
	四国	36.7	23.5	40.2	45.5
	九州	34.9	26.7	47.6	15.0

10. 宿泊客 1 人当り総単価 <図 6、表 20、表 21>

宿泊客 1 人当りの単価は、売上を宿泊客数で除して求めています。

(1) 宿泊客 1 人当り総単価

1 人当り総単価＝総売上÷年間宿泊人員

全体の平均は 19,967 円となり、前年度から 1,272 円減少、令和元年度から 901 円増加しました。

- ・大規模 17,326 円 (前年度比 ▲5,972 円 ▲25.6% / 令和元年度比 ▲2,213 円 ▲11.3%)
- ・中規模 21,326 円 (前年度比 +1,302 円 +6.5% / 令和元年度比 +2,716 円 +14.6%)
- ・小規模 24,028 円 (前年度比 ▲5,188 円 ▲17.8% / 令和元年度比 ▲740 円 ▲3.0%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：22,260 円
- ・赤字：18,006 円

前年度からは減少しましたが、コロナ禍以前よりは増加しています。個人のお客様の割合が増加したことによると思われます。規模により大きな違いがあります。前回調査の反動もあると思われます。

(2) 宿泊客 1 人当り宿泊料理単価

1 人当り宿泊料理単価＝宿泊料理売上÷宿泊人員

全体平均は 17,088 円となり、前年度から 179 円減少、令和元年度から 3,373 円増加しました。

- ・大規模 14,903 円 (前年度比 ▲4,196 円 ▲22.0% / 令和元年度比 +378 円 +2.6%)
- ・中規模 18,536 円 (前年度比 +2,206 円 +13.5% / 令和元年度比 +5,672 円 +44.1%)
- ・小規模 19,311 円 (前年度比 ▲3,439 円 ▲15.1% / 令和元年度比 ▲251 円 ▲1.3%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 19,265 円
- ・赤字 15,234 円

(3) 宿泊客 1 人当り飲物単価

1 人当り飲物単価＝飲物売上÷宿泊人員

全体平均は 638 円となり、前年度から 3 円増加、令和元年度から 575 円減少しました。

- ・大規模 478 円 (前年度比 ▲217 円 ▲31.2% / 令和元年度比 ▲374 円 ▲43.9%)
- ・中規模 714 円 (前年度比 +103 円 +16.8% / 令和元年度比 ▲834 円 ▲53.9%)
- ・小規模 913 円 (前年度比 +87 円 +10.6% / 令和元年度比 ▲769 円 ▲45.7%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 796 円
- ・赤字 505 円

(4) 宿泊客 1 人当り売店単価

1 人当り売店単価＝売店売上÷宿泊人員

全体平均は 652 円となり、前年度から 31 円減少、令和元年度から 321 円減少しました。

- ・大規模 775 円 (前年度比 ▲74 円 ▲8.7% / 令和元年度比 ▲423 円 ▲35.3%)
- ・中規模 574 円 (前年度比 ▲46 円 ▲7.5% / 令和元年度比 ▲142 円 ▲19.9%)
- ・小規模 491 円 (前年度比 ▲61 円 ▲11.0% / 令和元年度比 ▲534 円 ▲52.1%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 621 円 ・赤字 656 円

(5) 宿泊客 1 人当りその他単価

1 人当りその他単価＝その他売上÷宿泊人員

全体平均は 1,589 円となり、前年度から 1,065 円減少、令和元年度から 1,577 円減少しました。

- ・大規模 1,170 円 (前年度比 ▲1,485 円 ▲55.9% / 令和元年度比 ▲1,795 円 ▲60.5%)
- ・中規模 1,503 円 (前年度比 ▲960 円 ▲39.0% / 令和元年度比 ▲1,979 円 ▲56.8%)
- ・小規模 3,313 円 (前年度比 ▲1,775 円 ▲34.9% / 令和元年度比 +815 円 +32.6%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 1,578 円 ・赤字 1,610 円

表20 宿泊客1人当りの総売上高 (単位:円)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
28 年	18,899	19,709	17,673	20,230
29 年	19,589	20,145	18,662	20,431
30 年	20,589	20,334	20,707	21,704
令和 元 年	19,066	19,539	18,610	24,768
2 年	21,239	23,298	20,024	29,216
3 年	19,967	17,326	21,326	24,028

図6 客1人当り総売上高の推移

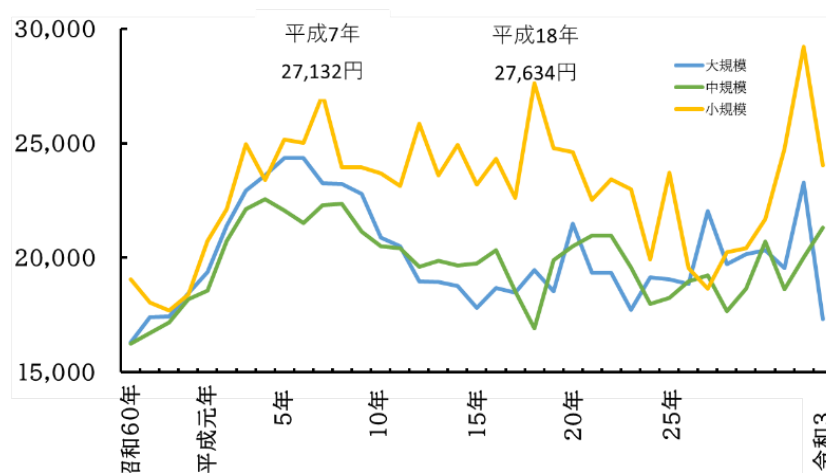


表21 宿泊客1人当り売上高

(単位:円)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料 理売上	28 年	14,452	14,919	13,662	15,535
	29 年	14,604	14,635	14,254	16,390
	30 年	15,670	14,951	16,233	17,639
	令和 元 年	13,715	14,525	12,864	19,562
	2 年	17,267	19,099	16,330	22,750
	3 年	17,088	14,903	18,536	19,311
飲物 売上	28 年	39,512	38,994	38,593	46,241
	29 年	1,047	976	1,140	1,086
	30 年	1,016	1,052	977	971
	令和 元 年	1,213	852	1,548	1,682
	2 年	635	695	611	826
	3 年	638	478	714	913
売店 売上	28 年	1,016	1,293	785	758
	29 年	960	1,119	778	719
	30 年	1,023	1,271	742	797
	令和 元 年	973	1,198	716	1,025
	2 年	683	849	620	552
	3 年	652	775	574	491
その他 売上	28 年	24,229	25,403	22,431	24,689
	29 年	2,977	3,414	2,489	2,237
	30 年	2,879	3,060	2,755	2,297
	令和 元 年	3,166	2,965	3,482	2,498
	2 年	2,654	2,655	2,463	5,088
	3 年	1,589	1,170	1,503	3,313

11.売上効率 <図 7、表 22>

(1)1 室当り売上高

宿泊業にとって客室 1 室当りの年間売上は重要な指標です。

全体では 6,126 千円と前年度比 12.1%減少、令和元年度比 41.0%減少しました。

コロナ禍以前と比べ大きく減少しています。特に団体のお客様が多い大規模旅館の落ち込みが激しくなっています。

- ・大規模 4,887 千円 (前年度比 ▲2,067 千円 ▲29.7% / 令和元年度比 ▲5,133 千円 ▲51.2%)
- ・中規模 7,215 千円 (前年度比 +627 千円 +9.5% / 令和元年度比 ▲3,595 千円 ▲33.3%)
- ・小規模 7,303 千円 (前年度比 ▲1,256 千円 ▲14.7% / 令和元年度比 ▲2,967 千円 ▲28.9%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：8,747 千円 赤字：4,696 千円
- ・大規模 黒字：6,913 千円 赤字：4,293 千円
- ・中規模 黒字：9,616 千円 赤字：5,262 千円
- ・小規模 黒字：9,642 千円 赤字：4,964 千円

1 室当りの売上高を増加させることが黒字化へのひとつの道筋となっています。

(2) ADR (1 日 1 室当り客室平均単価) (Average Daily Rate の略)

全体では 38,267 千円と前年度比 5,375 千円減少、令和元年度比 4,079 千円増加しました。

- ・大規模 33,038 千円 (前年度比 ▲10,605 千円 ▲24.3% / 令和元年度比 ▲6,341 千円 ▲47.4%)
- ・中規模 42,397 千円 (前年度比 +461 千円 +1.1% / 令和元年度比 +12 千円 +0.1%)
- ・小規模 42,267 千円 (前年度比 ▲7,851 千円 ▲15.7% / 令和元年度比 ▲2,169 千円 ▲6.1%)

黒字、赤字別では、

- ・黒字 49,569 千円
- ・赤字 22,469 千円

(3) RevPAR (1 日 1 室当りの売上=客室稼働率×ADR) (Revenue Per Available Room の略)

全体では 16,790 千円と前年度比 2,943 千円減少、令和元年度比 4,330 千円減少しました。

- ・大規模 13,303 千円 (前年度比 ▲5,975 千円 ▲31.0% / 令和元年度比 ▲11,980 千円 ▲47.4%)
- ・中規模 19,718 千円 (前年度比 +706 千円 +3.7% / 令和元年度比 ▲12 千円 ▲0.1%)
- ・小規模 20,988 千円 (前年度比 ▲4,324 千円 ▲17.1% / 令和元年度比 ▲1,364 千円 ▲6.1%)

黒字・赤字別では、

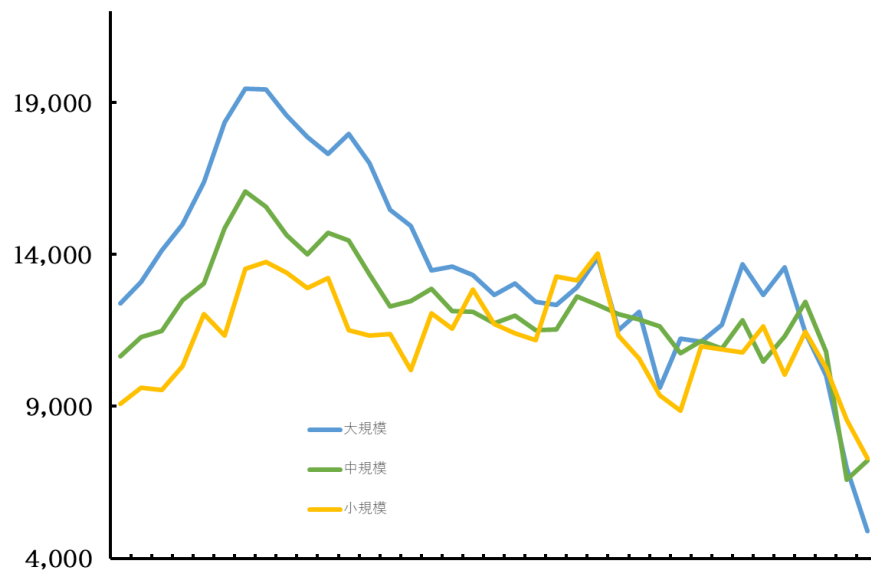
- ・黒字 41,216 千円
- ・赤字 35,316 千円

表22 売上効率

(単位:千円)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1 室 当 り 売 上 高	28 年	11,590	12,660	10,480	11,630
	29 年	12,360	13,580	11,310	10,050
	30 年	11,820	11,440	12,440	11,460
	令和 元 年	10,380	10,020	10,810	10,270
	2 年	6,966	6,954	6,588	8,559
	3 年	6,126	4,887	7,215	7,303
A D R	28 年	—	—	—	—
	29 年	38,924	38,125	39,288	43,756
	30 年	39,478	34,902	44,580	46,562
	令和 元 年	34,188	39,379	32,223	44,436
	2 年	43,641	43,643	41,936	50,118
	3 年	38,267	33,038	42,397	42,267
R e v P a r	28 年	—	—	—	—
	29 年	26,452	28,131	24,751	24,071
	30 年	25,307	23,322	28,047	25,892
	令和 元 年	21,120	25,283	19,730	22,352
	2 年	19,733	19,278	19,012	25,312
	3 年	16,790	13,303	19,718	20,988

図7 1室当り売上の推移



12.就業者・就業者効率 <図 8、表 23、表 24、表 25>

旅館ホテル業には様々な雇用形態が存在しますが、本調査では常勤役員、正社員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員の合計を就業者としています。

(1) 就業者数

=常勤役員+正社員+パートタイマー、アルバイト、派遣社員

1 軒当り就業者数は規模にほぼ比例しています。

全体の平均は 61 人で前年度比 7 人減少、令和元年度比 13 人減少となりました。

- ・大規模 116 人（前年度比 ▲45 人 ▲28.2% / 令和元年度比 ▲26 人 ▲18.6%）
- ・中規模 73 人（前年度比 +10 人 +16.3% / 令和元年度比 ▲5 人 ▲6.1%）
- ・小規模 26 人（前年度比 +1 人 +4.6% / 令和元年度比 +3 人 +13.7%）

表23 就業者数 (単位:人)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
就業者数	28 年	68	143	67	31
	29 年	80	174	72	28
	30 年	91	178	90	31
	令和 元 年	74	142	78	23
	2 年	68	161	63	25
	3 年	61	116	73	26

(2)1 室当り就業者数

1 室当り就業者数=就業者数÷客室数

1 室当りの就業者数は規模全体で 0.98 人であり前年度から 8.4%減少、令和元年度から 6.7%減少しました。

規模別では

- ・大規模 0.64 人（前年度比 ▲0.4 人 ▲36.0% / 令和元年度比 ▲0.2 人 ▲21.9%）
- ・中規模 1.25 人（前年度比 +0.1 人 +12.9% / 令和元年度比 ±0.0 人 ▲2.1%）
- ・小規模 1.38 人（前年度比 +0.1 人 +5.0% / 令和元年度比 +0.1 人 +10.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1.19 人 赤字：0.86 人

(3)就業者数 1 人当り年間宿泊人員

就業者数 1 人当り年間宿泊人員=年間宿泊利用人員÷就業者数

就業者 1 人当りの宿泊人員は規模全体で 312 人であり前年度から 9.5%増加、令和元年度から 42.2%減少しました。

規模別では

- ・大規模 439 人（前年度比 +199 人 +83.0% / 令和元年度比 ▲249 人 ▲36.2%）
- ・中規模 268 人（前年度比 ▲15 人 ▲5.3% / 令和元年度比 ▲193 人 ▲41.9%）
- ・小規模 220 人（前年度比 ▲76 人 ▲25.7% / 令和元年度比 ▲145 人 ▲39.7%）

黒字・赤字別では、

・黒字：329人 赤字：301人

(4) 就業者一人当り売上高

就業者一人当り売上高＝総売上÷就業者数

労働集約産業である旅館ホテルにとって大切な指標です。本調査では常勤役員、社員、パートタイマー・アルバイト、派遣社員を就業者として算出しています。全体平均は6,226千円で前年度比2.7%増加、令和元年度比42.8%減少でした。

- ・大規模 7,611千円（前年度比 +1,060千円 +16.2% / 令和元年度比 ▲5,864千円 ▲43.4%）
- ・中規模 5,717千円（前年度比 +327千円 +6.1% / 令和元年度比 ▲3,513千円 ▲38.1%）
- ・小規模 5,291千円（前年度比 ▲991千円 ▲15.8% / 令和元年度比 ▲4,209千円 ▲44.3%）

黒字・赤字別では、

・黒字 7,319千円 ・赤字 5,417千円

(5) 就業者1人当り人件費

就業者1人当り人件費＝人件費(外注費等も含む)÷就業者数

人件費は協会の統一会計基準における科目を全て含みます。規模全体で2,759千円で前年度から5.8%減少、令和元年度比28.0%減少しました。

規模別では

- ・大規模 3,368千円
（前年度比 +128千円 +4.0%
/ 令和元年度比 ▲1,352千円 ▲28.6%）
- ・中規模 2,496千円
（前年度比 ▲148千円 ▲5.6%
/ 令和元年度比 ▲724千円 ▲22.5%）
- ・小規模 2,460千円
（前年度比 ▲250千円 ▲9.2%
/ 令和元年度比 ▲1,050千円 ▲29.9%）

黒字・赤字別では、

・黒字：2,717千円 赤字：2,868千円

表24 従業員効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
就業者数 (人)	28年	1.13	0.96	1.20	1.58
	29年	1.19	1.05	1.30	1.48
	30年	1.31	1.06	1.58	1.64
	令和元年	1.05	0.82	1.28	1.25
	2年	1.07	1.00	1.11	1.31
	3年	0.98	0.64	1.25	1.38
年間就業者 宿泊者1人当り (人)	28年	528	643	491	357
	29年	532	643	465	336
	30年	438	529	378	322
	令和元年	540	688	461	365
	2年	285	240	283	296
	3年	312	439	268	220
売上高 (千人当り)	28年	10,330	13,260	8,880	7,480
	29年	10,400	12,950	8,690	6,700
	30年	9,000	10,750	7,800	6,980
	令和元年	10,890	13,450	9,230	9,500
	2年	6,059	6,551	5,390	6,282
	3年	6,226	7,611	5,717	5,291
人件費 (千人当り)	28年	3,360	4,160	2,910	2,660
	29年	3,410	4,090	2,950	2,420
	30年	3,060	3,540	2,700	2,610
	令和元年	3,830	4,720	3,220	3,510
	2年	2,928	3,240	2,644	2,710
	3年	2,759	3,368	2,496	2,460

(6)労働生産性

労働生産性＝売上総利益÷就業者数

労働生産性を上記の計算式で算出しました。全体平均は 4,719 千円で、前年度から 9 千円減少、令和元年度から 2,661 千円減少しました。

労働集約型産業である旅館にとって労働生産性の向上は発展のうえで不可欠です。優秀な人材を確保し、労働生産性の更なる向上が必要です。

- ・大規模 5,676 千円（前年度比 ▲2,682 千円 ▲32.1% / 令和元年度比 ▲3,284 千円 ▲36.6%）
- ・中規模 4,311 千円（前年度比 +87 千円 +2.1% / 令和元年度比 ▲2,119 千円 ▲33.0%）
- ・小規模 4,233 千円（前年度比 ▲934 千円 ▲18.1% / 令和元年度比 ▲1,927 千円 ▲31.3%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：5,706 千円 赤字：4,170 千円

労働生産性の違いが黒字・赤字を分けた要因のひとつと考えられます。

(7)労働分配率

労働分配率＝人件費÷売上総利益×100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率です。全体平均では 58.5%で、前年度から 3.4 ポイント減少、令和元年度から 12.3 ポイント増加しました。

労働分配率は高ければ利益を圧迫しますが、低くければ良いとは限りません。付加価値が高まり低くなるのは良いのですが、給料を安くする等した結果で低くなるのは問題です。

- ・大規模 59.3%（前年度比 +20.5P +52.9% / 令和元年度比 +14.5P +32.5%）
- ・中規模 57.9%（前年度比 ▲4.7P ▲7.5% / 令和元年度比 +8.2P +16.5%）
- ・小規模 58.1%（前年度比 +5.7P +10.9% / 令和元年度比 +11.0P +23.4%）

黒字・赤字別では、・黒字：47.6% 赤字：68.8%

表25 労働生産性、労働分配率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
労働生産性 (千円)	28 年	7,890	10,050	6,750	5,800
	29 年	7,960	9,820	6,700	5,260
	30 年	6,900	8,130	6,070	5,440
	令和 元 年	7,380	8,960	6,430	6,160
	2 年	4,728	8,358	4,224	5,167
	3 年	4,719	5,676	4,311	4,233
労働分配率 (%)	28 年	42.6	41.4	43.1	45.8
	29 年	42.8	41.7	44.0	45.4
	30 年	44.3	43.5	44.5	48.0
	令和 元 年	46.2	44.8	49.7	47.1
	2 年	61.9	38.8	62.6	52.4
	3 年	58.5	59.3	57.9	58.1

13.延床面積効率<表 26>

(1)1 室当り延べ面積＝延べ面積÷客室数

全体平均では 128 m² となり、前年度と比べ 26.4 m² 減少、令和元年度と比べ 5.6 m² 増加しました。

- ・大規模 124 m² (前年度比 ▲42 m² ▲25.6% / 令和元年度比 ▲2 m² ▲1.9%)
- ・中規模 137 m² (前年度比 ▲6 m² ▲3.9% / 令和元年度比 +17 m² +14.5%)
- ・小規模 112 m² (前年度比 ▲23 m² ▲17.2% / 令和元年度比 ▲8 m² ▲6.9%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：152 m² 赤字：114 m²

(2)定員 1 人当り延べ面積

定員 1 人当り延べ面積＝延べ面積÷収容人員

全体平均は 33.4 m² で前年度比 8.1% 減少、令和元年度比 13.0% 増加しました。

- ・大規模 33.9 m² (前年度比 ▲4.6 m² ▲12.0% / 令和元年度比 +0.9 m² +2.7%)
- ・中規模 33.6 m² (前年度比 ±0.0 m² ▲0.1% / 令和元年度比 +5.4 m² +19.1%)
- ・小規模 31.2 m² (前年度比 ▲4.9 m² ▲13.5% / 令和元年度比 +3.7 m² +13.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：43.9 m² 赤字：28.7 m²

(3)延床面積 1 m² 当り売上高

延床面積 1 m² 当り売上＝総売上÷延床面積

延床面積当り売上は、装置産業である宿泊業にとって投資効率を分析するのに適した指標です。

全体では 48.0 千円と、前年度比 3.1 千円増加、令和元年度比 32.4 千円減少しました。

- ・大規模 39.6 千円 (前年度比 ▲2.3 千円 ▲5.6% / 令和元年度比 ▲40.4 千円 ▲50.6%)
- ・中規模 52.5 千円 (前年度比 +7.2 千円 +15.9% / 令和元年度比 ▲37.5 千円 ▲41.6%)
- ・小規模 65.0 千円 (前年度比 +2.7 千円 +4.4% / 令和元年度比 ▲15.5 千円 ▲19.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：57.6 千円 赤字：41.0 千円
- ・大規模 黒字：34.9 千円 赤字：42.2 千円
- ・中規模 黒字：72.0 千円 赤字：38.3 千円
- ・小規模 黒字：80.3 千円 赤字：69.3 千円

表26 延床面積効率

(単位: m²)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1 室当り延べ面積	28 年	145	153	142	123
	29 年	147	154	145	116
	30 年	146	131	165	128
	令和 元 年	122	126	120	120
	2 年	154	166	143	135
	3 年	128	124	137	112
定員 1 人当り延べ面積	28 年	32.4	33.8	31.7	29.3
	29 年	32.7	34.5	31.6	27.6
	30 年	33.4	31.8	35.3	30.8
	令和 元 年	29.6	33.0	28.2	27.5
	2 年	36.4	38.5	33.6	36.1
	3 年	33.4	33.9	33.6	31.2
延床面積当り売上高(千円)	28 年	80.1	80.4	70.5	90.5
	29 年	80.5	80.9	70.9	90.0
	30 年	70.9	70.8	70.8	90.3
	令和 元 年	80.4	80.0	90.0	80.5
	2 年	44.9	41.9	45.3	62.3
	3 年	48.0	39.6	52.5	65.0

Ⅱ.全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計しています。

1.集客方法<図 9、表 27>

(1)予約方法

お客様が予約される際の方法を旅行会社、OTA（オンライントラベル）、自社 HP、直予約の 4 つに絞って調査しました。

(2)旅行会社経由率

旅行会社経由率＝旅行会社経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

旅行会社経由の予約は毎年減少しており、今回の調査において全体平均は 22.5%であり、前年度から 1.6 ポイント減少、令和元年度から 18.4 ポイント減少しました。団体のお客様が消滅したことが大きく影響しました。

- ・大規模 25.2%（前年度比 ▲1.8P ▲6.8% / 令和元年度比 ▲18.3P ▲42.1%）
- ・中規模 21.2%（前年度比 ▲2.5P ▲10.4% / 令和元年度比 ▲18.8P ▲46.9%）
- ・小規模 16.9%（前年度比 +6.3P +59.4% / 令和元年度比 ▲4.6P ▲21.4%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：16.8% 赤字：27.1%

(3)OTA(オンライントラベル)経由率

OTA 経由率＝OTA 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 45.3%であり、前年度から 3.0 ポイント減少、令和元年度から 14.4 ポイント増加しました。ほぼ毎年割合が増加してきましたが、今回は減少しました。自社 HP での集客に力を入れたことによるものかもしれません。

- ・大規模 43.4%（前年度比 ▲4.2P ▲8.9% / 令和元年度比 +12.9P +42.2%）
- ・中規模 46.9%（前年度比 ▲1.3P ▲2.8% / 令和元年度比 +17.3P +58.3%）
- ・小規模 46.4%（前年度比 ▲5.3P ▲10.2% / 令和元年度比 ▲0.5P ▲1.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：47.8% 赤字：42.9%

(4)自社 HP 経由率

自社 HP 経由率＝自社 HP 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 14.9%であり、前年度から 3.8 ポイント増加、令和元年度から 3.3 ポイント増加しました。

- ・大規模 14.7%（前年度比 +4.2P +39.8% / 令和元年度比 +4.0P +37.2%）
- ・中規模 14.3%（前年度比 +4.0P +38.7% / 令和元年度比 +2.9P +25.3%）
- ・小規模 18.3%（前年度比 +1.0P +5.8% / 令和元年度比 ▲4.8P ▲20.8%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：17.7% 赤字：13.5%

(4)直予約(自社 HP を除く)経由率

直予約(自社 HP を除く)経由率=直予約(自社 HP を除く)の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 17.2%と、前年度比 1.1 ポイント増加しました。

- ・大規模 16.7% (前年度比 +2.4P +16.7P)
- ・中規模 17.3% (前年度比 ▲0.2P ▲1.0P)
- ・小規模 18.4% (前年度比 ▲0.8P ▲4.4P)

(前年度新しく作った設問であるため、令和元年度比は掲載しておりません。)

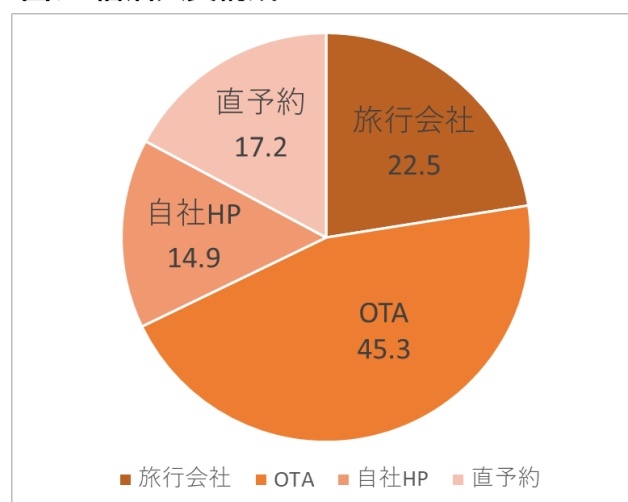
コロナ禍で売上は大きく減少しましたが、リピーター様等が自社 HP から予約してくださったことが割合の増加の原因ではないかと推測します。

表27 集客の方法

(単位: %)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
旅行会社経由	28 年	44.9	52.1	41.1	30.9
	29 年	40.3	42.7	37.8	31.8
	30 年	41.6	46.1	38.7	28.3
	令和 元年	40.9	43.5	40.0	21.5
	2 年	24.1	27.0	23.7	10.6
	3 年	22.5	25.2	21.2	16.9
OTA 経由	28 年	24.1	20.1	27.3	28.6
	29 年	25.0	24.3	25.7	27.8
	30 年	26.9	25.7	26.9	34.2
	令和 元年	30.9	30.5	29.6	46.9
	2 年	48.3	47.6	48.2	51.7
	3 年	45.3	43.4	46.9	46.4
自社 HP 経由	28 年	10.1	7.9	10.9	15.6
	29 年	10.7	10.3	10.5	15.0
	30 年	12.3	11.1	12.6	18.5
	令和 元年	11.6	10.7	11.4	23.1
	2 年	11.1	10.5	10.3	17.3
	3 年	14.9	14.7	14.3	18.3
直予約	28 年	-	-	-	-
	29 年	-	-	-	-
	30 年	-	-	-	-
	令和 元年	-	-	-	-
	2 年	16.1	14.3	17.5	19.2
	3 年	17.2	16.7	17.3	18.4

図9 宿泊人員構成



2.ホームページ<表 28、表 29、表 30>

(1)即時予約可能なホームページがある場合の対応言語

外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 93.2%
- ・英語 : 59.1%
- ・繁体字 : 29.5%
- ・簡体字 : 25.0%
- ・韓国語 : 21.0%
- ・タイ語 : 2.8%
- ・スペイン語 : 1.1%
- ・ドイツ語 : 1.1%
- ・フランス語 : 2.3%

表28 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位: %)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和3年	93.2	59.1	29.5	25.0	21.0	2.8	1.1	1.1	2.3

(2)即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語

スマホの外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 89.8%
- ・英語 : 51.0%
- ・繁体字 : 24.8%
- ・簡体字 : 21.8%
- ・韓国語 : 19.9%
- ・タイ語 : 2.4%
- ・スペイン語 : 1.9%
- ・ドイツ語 : 1.5%
- ・フランス語 : 2.9%

表29 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語 (単位: %)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和3年	89.8	51.0	24.8	21.8	19.9	2.4	1.9	1.5	2.9

(3)インターネットでの予約受付方法

全体の平均は、

- ・自社ホームページだけで販売 0.5%
- ・自社ホームページと OTA で販売 93.2%
- ・自社ホームページはなく OTA だけで販売 1.9%
- ・ネット予約は取り扱っていない 2.9%

表30 インターネット対応の状況について (単位: %)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
自社HPだけで販売	0.5	0.0	2.8	1.2
自社HPとOTAで販売	93.2	97.2	96.6	87.7
自社HPはなく、OTAだけで販売	1.9	96.6	3.4	0.0
ネット予約は取り扱っていない	2.9	87.7	0.0	7.4

3.インターネット対応 <表 31>

(1)サイトコントローラーの導入状況

サイトコントローラーを導入している全体の平均は 91.7%でした。

大規模：100.0% 中規模：95.5% 小規模：84.0%

地域別では関東が 100%でした。

(2)公衆無線LANの設置状況、設置場所

公衆無線 LAN を全館で使えるのは全体で 85.9%です。毎年着実に増加しています。

大規模：86.1% 中規模：88.8% 小規模：82.7%

表31 インターネット対応

(単位: %)

	サイトコントローラーを導入している	公衆無線LANの設置		
		全館で使える	一部で使える	使えない
全 体	91.7	85.9	11.2	1.5
大規模	100.0	86.1	13.9	0.0
中規模	95.5	88.8	10.1	1.1
小規模	84.0	82.7	11.1	2.5
北海道	89.3	92.9	7.1	0.0
東北	85.0	80.0	15.0	0.0
関東	100.0	85.2	11.1	3.7
北陸信越	96.2	88.5	11.5	0.0
中部	95.0	95.0	5.0	0.0
関西	94.4	97.2	0.0	0.0
中国	93.8	68.8	31.3	0.0
四国	78.9	63.2	31.6	5.3
九州	85.7	85.7	0.0	7.1
黒字	93.7	88.6	10.1	1.3
赤字	92.7	86.2	11.9	0.0

4.外国人宿泊客 <表 32、表 33、表 34、表 35、表 36>

(1)外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体における外国人宿泊人員比率は 0.2%となり、前年度から 0.6 ポイント減少、令和元年度から 9.5 ポイント減少しました。実態的にはほぼゼロです。この解説を記している時点で急激な増加を示しており、令和 5 年の一層の増加に期待したいと思います。

- ・大規模 0.0% (前年度比 ▲1.3P ▲97.3%
/ 令和元年度比 ▲10.7P ▲99.7%)
- ・中規模 0.6% (前年度比 ▲0.1P ▲20.9%
/ 令和元年度比 ▲7.9P ▲93.5%)
- ・小規模 0.1% (前年度比 ▲0.6P ▲89.7%
/ 令和元年度比 ▲9.8P ▲99.3%)

表32 外国人宿泊人員比率

(単位: %)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
28 年	9.5	11.1	7.2	11.1
29 年	10.2	11.2	8.1	14.0
30 年	9.9	10.3	9.1	11.9
令和 元 年	9.7	10.7	8.5	9.9
2 年	0.8	1.3	0.7	0.7
3 年	0.2	0.0	0.6	0.1

(2)地域別外国人宿泊人員比率

地域別で数値は北海道と関東が多くなっていますが、現状ほとんどゼロと言えます。

表33 地域別外国人宿泊人員比率

地域	令和2年	令和3年	前年比
北 海 道	1.8	0.0	2.2
東 北	0.6	0.1	13.9
関 東	1.9	0.7	36.7
北 陸 信 越	0.1	0.0	23.0
中 部	0.3	0.1	45.1
関 西	0.5	0.0	6.3
中 国	0.9	0.0	2.4
四 国	0.9	0.0	3.1
九 州	1.1	0.5	49.6

(3)国籍別外国人宿泊人員

国籍別外国人＝国別の人員÷外国人宿泊人員×100

全体において国籍別で一番多いのはその他 70.3%、次いで中国の 11.1%、米国の 6.3%、韓国の 5.9%となっています。 コロナによってインバウンドがほぼ消滅しましたので、国別割合の意味はあまりありません。

表34 国籍別外国人宿泊

(単位: %)

年度	中国	韓国	台湾	香港	米国	タイ	豪州	その他
28 年	23.3	15.5	26.3	12.6	3	4.0	-	14.6
29 年	22.0	15.2	25.0	16.6	2.6	3.0	-	14.5
30 年	19.3	16.1	23.8	16.1	3.6	2.7	-	17.7
令和 元 年	26.4	12.9	25.7	12.7	3.4	3.2	-	14.9
2 年	35.9	2.6	16.1	10.3	4.2	6.3	1.9	22.6
3 年	11.1	5.9	2.3	1.8	6.3	1.6	0.6	70.3

(4)外国人客受け入れの意向

- ・積極的に受け入れたい 51.0% (▲4.0P)
- ・高単価の外国人のみ受け入れたい 22.5% (+0.8P)
- ・日本人観光客を優先する 25.0% (+1.7P)
- ・外国人客は受け入れたくない 0.0% (±0.0P)

表35 訪日外国人客の受入れ

(単位: %)

年度	積極的に受け入れたい	高単価の外国人客のみ受け入れたい	日本人客を優先する	外国人客は受け入れたくない
28 年	46.9	23.0	24.6	1.3
29 年	49.4	22.9	22.9	1.7
30 年	53.4	23.3	19.6	1.1
令和 元 年	51.9	20.0	25.9	1.5
2 年	55.0	21.7	23.3	0.0
3 年	51.0	22.5	25.0	0.0

表36 規模別外国人の受け入れ意向

(単位: %)

令和3年	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
積極的に受け入れたい	51.0	51.4	57.5	43.6
高単価の外国人客のみ受け入れたい	22.5	25.7	23.0	20.5
日本人客を優先する	25.0	22.9	19.5	32.1
外国人客は受け入れたくない	0.0	0.0	0.0	0.0

5.クレジットカード&電子決済<表 37>

(1)クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能なのは全体で 96.6%でした。地域別では関東、中部、四国が 100%でした。

大規模：100.0% 中規模：100.0% 小規模：91.4%

(2)ネット予約時の事前決済

ネット予約時の事前決済が可能なのは全体で 89.8%となりました。地域別では中部が 100%でした。小規模や東北で低いことが課題です。

大規模：100.0% 中規模：97.8% 小規模：76.5%

(3)クレジットカード以外の電子決済

クレジットカード以外の電子決済が可能なのは全体で 76.2%となりました。規模が小さくなるほど低くなることが課題です。

大規模：94.4% 中規模：78.7% 小規模：65.4%

(4)自社 HP からの予約に占める事前決済の割合

自社 HP からの予約に占める事前決済の割合は全体で 25.3%となりました。

大規模：22.5% 中規模：26.4% 小規模：25.8%

表37 決済方法

(単位: %)

	クレジットカードによる決済が可能	ネット予約時の事前決済が可能	クレジットカード以外の事前決済が可能	自社HPからの予約に占める事前決済の割合
全 体	96.6	89.8	76.2	25.3
大規模	100.0	100.0	94.4	22.5
中規模	100.0	97.8	78.7	26.4
小規模	91.4	76.5	65.4	25.8
北海道	92.9	85.7	75.0	22.1
東北	95.0	70.0	75.0	24.2
関東	100.0	92.6	70.4	26.2
北陸信越	96.2	92.3	69.2	20.6
中部	100.0	100.0	90.0	24.4
関西	97.2	91.7	80.6	36.0
中国	93.8	93.8	75.0	17.4
四国	100.0	89.5	84.2	24.6
九州	92.9	92.9	64.3	23.6
黒字	97.5	89.9	75.9	24.9
赤字	96.3	90.8	77.1	25.6

むすび

今回の調査では全ての旅館ホテルの決算期が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前回に引き続き厳しい結果となりました。ただ一部の旅館では決算日の関係で令和2年秋のGOTOトラベルの恩恵を受けた決算になっています。

この報告書にはありませんが、調査票に決算書の数値を入力して頂くと前年度の平均やあるべき指標が表示され、自社の立ち位置が分かります。

調査にご協力頂きました会員の皆さまに感謝申し上げます。

令和5年度調査（令和5年8月から調査実施予定）も今回同様インターネットによる調査に致します。

今後とも経営に役立つ指標も掲載しますのでご協力宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和4年12月

営業状況等統計調査（解説編）

発行 一般社団法人 日本旅館協会

〒102-0093

東京都千代田区平河町 2-5-5

全国旅館会館 2 階

TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。